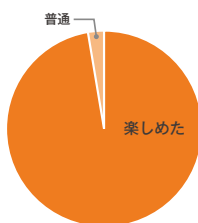


平井嘉一郎記念図書館 見学ツアー（支援者様対象）を開催しました！

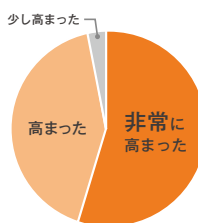
2015年度版「Donors Newsletter」ご送付の際にご案内いたしました、支援者様を対象とした平井嘉一郎記念図書館特別ツアーについてご報告いたします。開催当日（2016年3月27日）は、65名の皆様にご参加いただきました。学生スタッフによる館内の案内、文学部常世田良教授のミニ講義「大学教育と附属図書館の可能性」を実施し、支援者の皆様に、立命館への関心をさらに高めていただく機会となりました。

■ アンケート

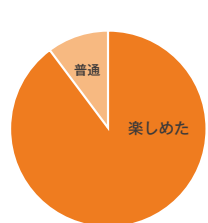
【特別見学ツアーについて】



【関心度の変化について】



【研究紹介について】



■ 参加者の皆様からのコメント

学生スタッフによる図書館ツアー

- 恵まれた環境で勉強する学生さんの益々の飛躍を祈念します。フレーフレー立命。
- 非常にしっかりと図書館の魅力を伝えていただきました。校友としてこれから図書館を訪れたいと思います。
- わかりやすい説明でした。母校への誇りを感じました。

常世田良教授のミニ講義「大学教育と附属図書館の可能性」

- ラーニングコモンズについてなど、常世田先生の説明に目からうろこが落ちる気持ちになりました。
- 現状の大学教育と図書館のあるべき姿を追求している姿勢に感銘を受けました。自分たちの在学当時の図書館とは雲泥の差がありますね。
- 常世田教授のアクティブ・ラーニング発祥のお話は、これまで聞いたことがありませんでしたので大変興味深く、もっと聞いていたいほど楽しかったです。



〈表紙写真〉

写真は今年4月に衣笠キャンパスに開館した「平井嘉一郎記念図書館」内の「ライブラリーバレー」です。建物中央にあるライブラリーバレーは、3層の吹抜け空間とし、来館者が学びの風景とともに本が並ぶ風景を臨むことのできる図書館のシンボリック空間として位置づけています。

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～

読み終えた本の買取額を寄付金として活用し、新しい図書の購入に役立てる古本募金活動を2013年度より実施しています。

実績

160,066冊(2,882,321円) 3,002名
2013年4月～2016年6月末

[活動事例]

年度	場所	活用内容
2013年10月	立命館小学校	1～6年生の必読書(43冊)
2014年8月	立命館大学	〈衣笠・BKC図書館〉英語多読本・日本語学習教材(307冊)
2015年2月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募って選定した図書(34冊)
2016年2月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募って選定した図書(29冊)



※2016年夏を目処に、立命館大学図書館（OICライブラリー）内の新たなレファレンスコーナーの整備（図書の購入・ブックトラックの設置など）に活用することになりました。

なお、購入された本には、「古本募金により集まった寄付で購入した」ことが分かるシールを貼付しており、手に取った学生・生徒・児童たちに、ご支援いただいた方々の想いが少しでも届いてほしいという願いを込めています。

check!



ご寄付のお礼と ご報告



立命館大学 平井嘉一郎記念図書館

立命館は アジアそして世界の 未来のために何ができるか？

平素は立命館学園の教育研究に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

立命館は、皆様のご期待にお応えできる学園であり続けるために、
児童・生徒・学生が新しい価値を創造できる人材に成長するための土台を
提供し続けていきます。

また、国際的通用性のある世界水準の教育と、
特色ある研究拠点の創造に努め、
日本・アジアそして世界の未来をつくる
「立命館らしい」児童・生徒・学生を育てることで、
教育機関としての役割を果たしてまいります。
今後とも温かいご支援を賜りますよう、
お願い申し上げます。

学校法人立命館 理事長 長田 豊臣

topic
1

民間企業からの 受託研究実施件数 全国1位

特色あふれる研究大学へ

立命館大学は全国1位(件数247件)となりました。また、科学研究費補助金(科研費)採択金額ランキングでは慶應義塾大学・早稲田大学に次ぐ私立大学3位(11億2,216万円)、採択件数ランキングでは私立大学4位(520件)となりました。2005年からの10年間で大学の採択金額は約2.3倍、採択件数は約2.5倍に増加、科研費の過去5年間の新規採択の累計数では、経営学・社会学が全国1位となっています。

▶ 民間企業からの受託研究実施件数 ()内は前年度順位

1位(2位)	立命館大学	247件
2位(1位)	近畿大学	239件
3位(5位)	慶應義塾大学	204件
4位(3位)	早稲田大学	160件
5位(7位)	日本大学	157件
6位(4位)	東京女子医科大学	150件
7位(6位)	東京大学	147件
8位(10位)	大阪大学	133件
9位(-)	大阪市立大学	118件
10位(14位)	東京都市大学	117件

※文部科学省「平成26年度大学等における産学連携等実施状況について」(2015年11月27日)

topic
2

67か国・地域、 438大学・機関と 協定を締結

グローバル社会で活躍できる人材を育成

1980年代から、世界各国の大学との協定締結を推進、2016年5月1日現在、67か国・地域、438大学・機関と協定を結んでいます。また、2015年度、学部と大学院を合わせ年間約1,300名が海外留学、約1,500名の外国人留学生を受け入れています。海外派遣者数では全国3位です。また、人事担当者(上場企業)に聞いた「グローバル化に向けて熱心に取り組んでいる大学」ランキングでは、立命館アジア太平洋大学が1位、立命館大学が6位にランクインしました。(日本経済新聞調べ)

▶ 各大学の日本人学生海外派遣者数

関西外国語大学	1,844名
早稲田大学	1,826名
立命館大学	1,299名
関西学院大学	882名
同志社大学	826名
明治大学	793名
上智大学	755名
慶應義塾大学	734名
関西大学	706名
中央大学	666名

※独立行政法人日本学生支援機構 平成26年度「協定等に基づく日本人学生派遣数の多い大学」

▶ 人事担当者(上場企業)に聞いた
「グローバル化に向けて熱心に取り組んでいる大学」ランキング

1位	立命館アジア太平洋大学
2位	上智大学
3位	東京大学
4位	南山大学
5位	早稲田大学
6位	立命館大学
7位	名古屋大学
8位	長岡技術科学大学
9位	慶應義塾大学
10位	立教大学

※日本経済新聞(2016年6月8日)

topic
3

図書貸出冊数 全国3位

より学びを深められる環境に

立命館大学では、学習図書館機能の強化に向けて、2013年度には学部学生の貸出冊数の上限を10冊から20冊に変更、貸出冊数は全国3位(2014年度)となりました。学習図書館機能の強化の一環として、各キャンパスの図書館に、学生同士による意見交換やディスカッションなどの共同学習を行うラーニングコモンズを整備しました。2016年4月には衣笠キャンパスに「平井嘉一郎記念図書館」が開館、一層学びを深められる環境が整いました。

▶ 図書の貸出冊数

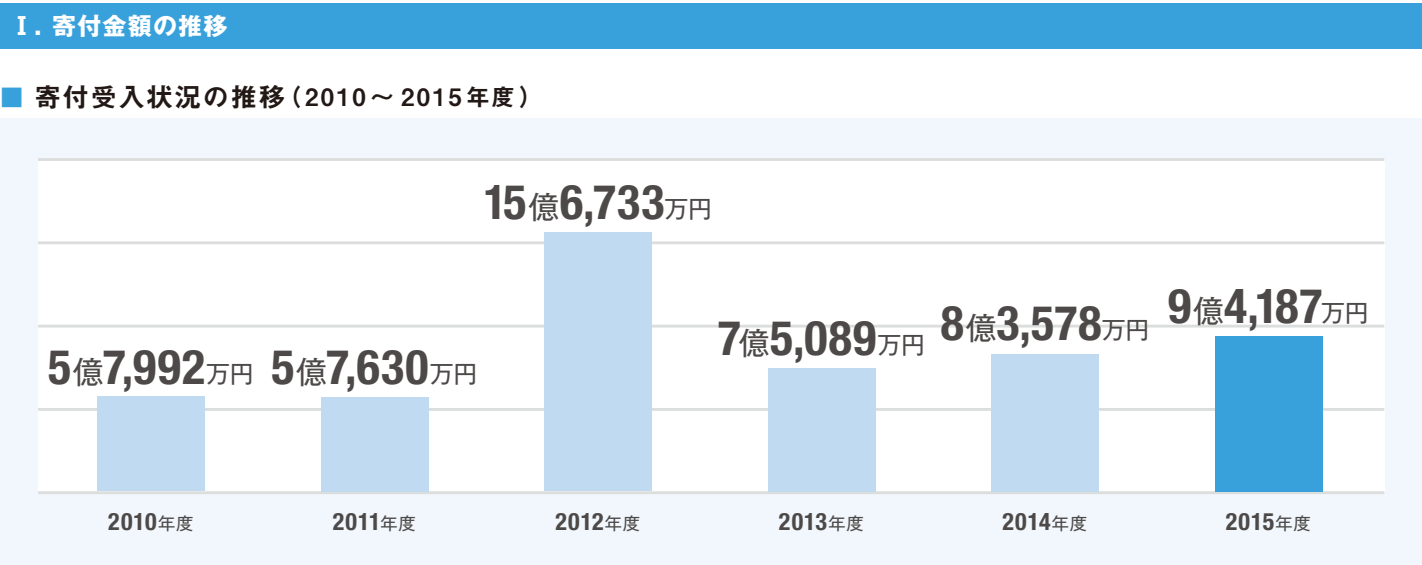
慶應義塾大学	782,801冊
早稲田大学	750,548冊
立命館大学	496,902冊
京都大学	471,723冊
東京大学	419,246冊
北海道大学	353,802冊
同志社大学	347,457冊
明治大学	342,396冊
大阪大学	334,343冊
日本大学	319,566冊

※朝日新聞出版「2017大学ランキング」

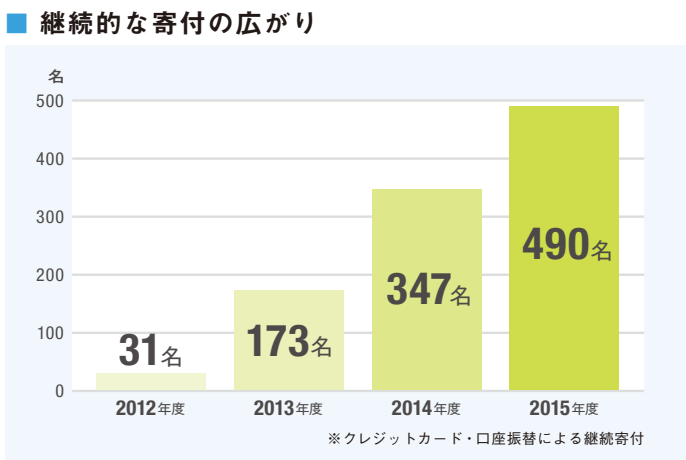
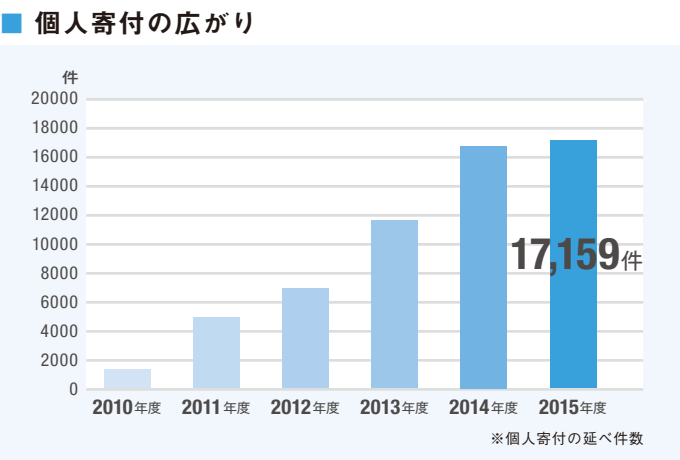
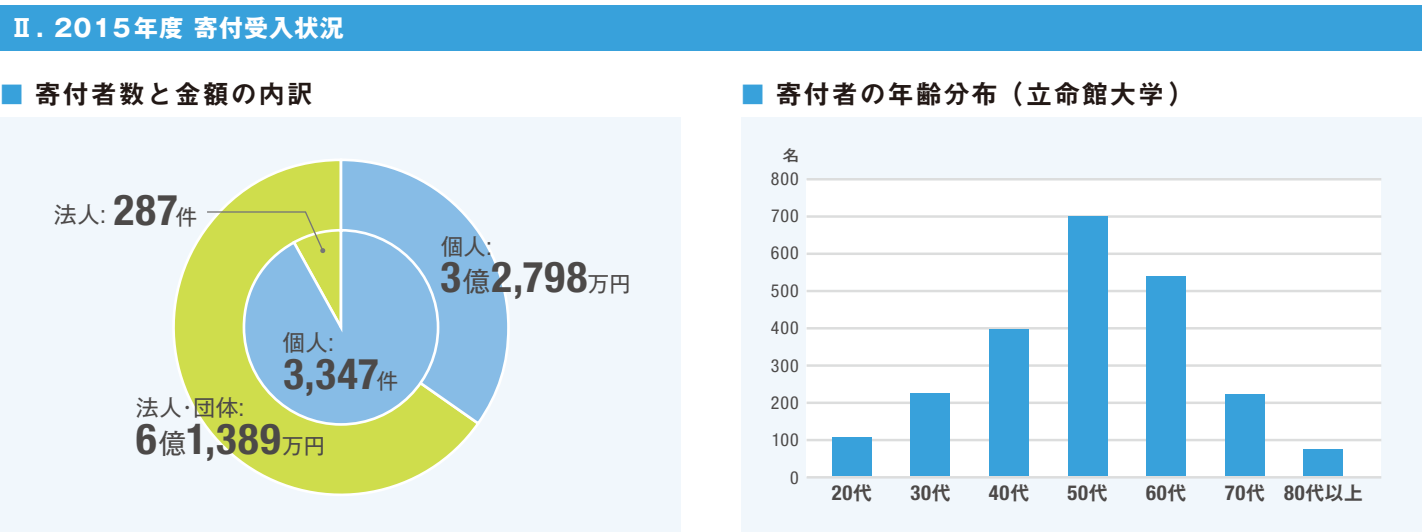
2015年度

実績報告

2015年度に皆様からいただきましたご支援についてご報告させていただきます。
昨年度は、総額9.4億円の温かいご支援を頂戴いたしました。



※2012年度は、新図書館建設にあたり、高額のご寄付をいただきました。



未来人財育成基金での取り組み

校友一人ひとりの「未来の立命館は私が創る」という想いを繋ぎ、校友の支援で後輩が育ち、後輩の成長が母校を発展させるという広く・長い支援のサイクルを生み出したい。そのような考えから始められた立命館大学校友会が主導する後輩・母校支援のかたちです。

実績

93,985,883円／2,460名（全11,978件）

2012年10月～2016年6月末

※法人・団体を含む

基金の活用方法について

2016年2月に基金の新しい活用プランを決定しました。今後、これらの活用プランを掲げてさらなる募集推進を行うとともに、活用プランの具体化を図っていきます。

新たに
加わった
活用プラン

- 海外留学支援 …… グローバル社会において活躍できる人材の育成
- 成長支援 …… 主体的に未来を切り拓いていく人材の育成
- 課外活動支援 …… 学びの場として課外活動の高度化・大衆化
- 研究支援 …… 後輩学生の研究力向上支援
- 施設整備支援 …… 学園発祥の地「京都」で後輩学生たちがグローバルに学び合う場「施設」の設置支援

特製立命館バッジプレゼント

累計2万円以上「立命館大学校友会未来人財育成基金」にご寄付くださった方々に感謝の気持ちを込めて、立命館バッジをプレゼントしています。

未来を切り拓く学生

世界のどこでも働ける人財をめざして

久乗 亜由美 さん（経営学部4回生、京都府出身）

観光系のベンチャー企業で、英語スタッフ兼経理として働いてきたことや、香港中文大学・同済大学に留学した経験を通じ、「世界のどこでも働ける人財になること」が目標になりました。語学力やスキル、経験値をさらに向上させたいと思い、3回生の春にアデコグループのインターンシッププログラム「CEO for One Month」に応募しました。

世界34カ国、同時進行で行われるこのプログラムで、日本の代表に選出されました。その国の代表になるとCountry Managerとともに1ヶ月間勤務ができます。そして、各国代表34名の中のTOP10名がスペイン・マドリッドへの選考旅行「Boot Camp」に参加することができ、さらにその中から1名だけが世界最大の人材会社・アデコグループのCEOとともに1ヶ月間勤務ができるというものです。

「Boot Camp」に選ばれた10名のうちアジア人は私だけでした。当初は英語力に自信を持てずにいましたが、他の参加者のことは意識せず、「いま自分の目の前にあるできることを精一杯頑張ろう!」と、気持ちを切り替えることで全力を出し切ることができ、Global CEOに選ばれました。それからは、

ベルギーでの1000名を前にしたスピーチ、タイでのワークショップ開催、世界経済フォーラムのダボス会議でのパネリストなど「自分には絶対できない!」と思うことへの挑戦の連続でした。

これまで私は、「CEOは実力のある人がなれるもの」だと思っていました。しかし実際は、まわりのサポートがあってこそ。まわりに感謝し、チームで目標を達成したいと強く思える人こそCEOになれると気付くことができました。実際にGlobal CEOとして世界各国をまわった際に、アジア人や日本人のリーダーが極端に少ないことを悔しく感じました。自分にはできないと思っていたことも頑張ればできることを体験し、「将来CEOになりたい」という新しい目標ができました。来春からは、社会人として新たな一歩を踏み出します。CEOになるという目標、私は必ず達成してみせます。

学生の活躍

■ 硬式野球部（2016.5.21）

春季リーグ優勝

■ 女子相撲部（2016.4.17）

「第4回国際女子相撲選拔堺大会」で世界一

■ 女子陸上競技部（2015.12.30）

富士山女子駅伝3連覇達成

■ 囲碁研究部（2015.12.23-26）

「第59回全日本大学囲碁選手権」で優勝



附属校のNEWS

立命館中学校・高等学校

Rits Super Global Forum 2015を実施

2016年1月、立命館高等学校において、第2回Rits Super Global Forumを実施しました。立命館高等学校では、「平和な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指す教育 システムの研究開発」というスーパーグローバルハイスクール (SGH) の研究開発課題のもと、「貧困の撲滅と災害の防止・対策～世界平和の実現のために～」をテーマに使命感・問題解決能力・判断力・プレゼンテーション力・積極性などを養う教育活動を実施しています。



立命館宇治中学校・高等学校

久保裕也選手・原川力選手(立命館宇治高等学校卒)「AFC U-23選手権カタール2016(リオデジャネイロオリンピック・アジア最終予選)」で活躍！

2016年1月、サッカーU-23日本代表の久保裕也選手・原川力選手が、カタールのドーハで行われた「AFC U-23選手権カタール2016(リオデジャネイロオリンピック・アジア最終予選)」準決勝に出場しました。久保選手が先制点、終了直前に原川選手が決勝点を挙げ、イラクに勝利し、リオデジャネイロオリンピックの出場が決定しました。

上月壮一郎君(高1(当時:中3))がサッカー日本代表(U-15)に選出されました！

2015年10月、上月壮一郎君(当時:中3)がサッカー日本代表(U-15)に選出され、バル・ド・マルヌU-16国際親善トーナメントに出場しました。将来、オリンピック日本代表となってくれることに期待です。



立命館慶祥中学校・高等学校

竹田晴輝君(高1(当時:中3))「第10回科学地理オリンピック日本選手権」で銀メダル獲得！

2016年3月、「第10回科学地理オリンピック日本選手権兼第13回国際地理オリンピック選抜大会」の二次選抜試験が行われ、竹田晴輝君

(当時:中3)が、見事銀メダルに輝きました。61名のメダル受賞者のうち、中学生は2名のみ、中学生での銀メダルは快挙です。



中桐悠一郎君(高2)「第27回 国際生物学オリンピック」の日本代表に選出！

2016年4月、「第27回 国際生物学オリンピック」の日本代表に中桐悠一郎君(高2)が選出されました。3,433名での予選を通過し、金賞受賞10名の中からさらに三次にわたる試験を経て選ばれた日本代表4名の内の1名です。



立命館守山中学校・高等学校

4月、立命館守山高等学校に硬式野球部が創部！

2016年4月から立命館守山高等学校に硬式野球部が創部されました。この春に入部してきたメンバーは19名、近隣の守山市民球場や立命館大学の柵野グラウンドにて、日々の練習に励んでいます。今夏、「第98回全国高等学校野球選手権滋賀大会」に初出場し、公式戦デビューを果たしました。



立命館小学校

子ども気候変動会議2015に参加

2015年11月、スウェーデンにて「子ども気候変動会議2015」が開催され、当時5年生の女子児童1名が日本代表として参加しました。本会議は、フランスでの「COP21」開催にあたり、「国連の気候変動会議に子供は招かれていない。しかし、『今日の子供は、明日の大人』であり、子供の意見も聞くべきではないか」との問題提起があり、世界25ヶ国から10～11歳の児童が一堂に会し、討論しました。



未来を切り拓く研究者

測位が難しい都市の地下空間で 人を安全に避難させる防災システム

立命館大学
情報理工学部
西尾 信彦 教授
Nobuhiko Nishio



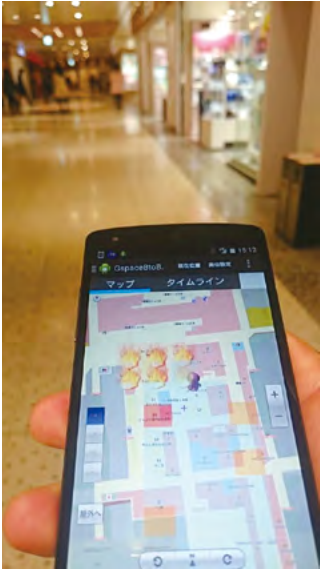
GPSに頼れない屋内での位置がわかるようにするには

GPS(全地球方位システム)の搭載されたスマートフォンの普及によって「自分が今どこにいるのか」を把握するのは難しいことではなくなった。こうしたG空間情報(地理空間情報; Geospatial Information)は、災害が発生した時に被災者の居場所や動きを把握し、安全に避難誘導することにも活用できる。ただ問題は、衛星から電波を受信するGPSは屋内や地下では使えないことだ。そこで西尾は複数の屋内測位技術を統合することでGPSに頼らずに屋内で自分の位置を知るのを可能にする方法を開発している。

「屋内の位置を測る方法には大きく二つあります。一つはスマートフォンなどの端末に内蔵された各センサを使って持ち主が今いる位置を推定する方法で、もう一つは施設側に測位を助ける機器を設置する方法です。どちらも一長一短あって一方だけでは屋内の位置を的確に測位するには十分ではありません。そこで両方を融合したハイブリッドの測位方法を適用しました」と西尾は解説する。

まずスマートフォンの端末に内蔵されているセンサには3軸方向の加速度を測定できる加速度センサや回転を測定できるジャイロセンサ、方位のわかる電子コンパスがあり、これらから端末の持ち主が移動する軌跡を導き出す。さらに気圧計で1m程度の精度で上下移動を推定することができ、都市の立体的な地下空間を人がどのように移動したかを捉えられる。

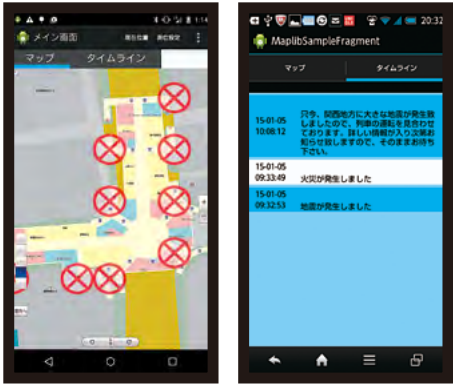
しかし、これだけでは相対的な移動はわかっても、どの場所にいるのかという絶対的な位置を知ることにはできない。それを可能にする方法の一つが、地下街のあちこちに設置されたWi-Fiの基地局の電波を受信し、基地局から端末までの距離を推定することだ。十分な精度を出すにはWi-Fi測位だけでは限界があるため、西尾は電波を発信する小型で省エネのBLE機器(Bluetooth Low Energy規格による電波発信機)を追加設置している。またWi-FiやBLEの絶対位置把握のための電波の他、人の流れを捉える機能も別途、総務省の研究開発支援事業で開発した。これらを最適に組み合わせることで、より正確・効率的に地下空間の人の位置や移動を推定することが可能になった。



いざという時に誰でも、簡単に使えるために

この屋内測位技術を利用したアプリケーションの開発を進めており、その1つが災害時に施設管理者が避難誘導に活用するための業務向けアプリだ。

各施設の防災センターに情報を集約するタブレットを配置してそれと連動させたシステムで、災害が起こると地下街利用者の移動の流れ情報が防災センターのタブレットに集約され、それをもとに防災センターから必要な情報や指示が職員の携帯するアプリに順次テキスト情報で配信される「タイムライン」機能と地図上に描画される「ハザードマップ」機能を搭載している。こうして地下空間の屋内測位技術と、防災センターでの災害時行動計画と連動した避難誘導アプリケーションを組み合わせせた「G空間地下街防災システム」を構築した。実証実験の結果、いずれも有効性を確かめることができたという。



アプリ画面

このシステムを防災対策の要にする

さらに西尾は、地下街だけでなくビルなど多様な屋内空間で防災に役立てるため、各種測位用電波や人流を推定するG空間情報機器を誘導灯に設置した「G空間誘導灯」を開発した。これについても総務省の実証事業ですでに有効性が確かめられている。今後日本の消防設備、消火・救助活動、消防士装備のICT化に大きく貢献することは間違いない。

2015年後半、西尾は最新の実証実験を大阪市で行っていた。それは複数の地下管理者の防災センターを連携させ、今まで以上に広範囲で「G空間地下街防災システム」を機能させようという試みだ。

そして、2016年7月に、大阪駅・梅田駅周辺地区での同システムの実運用のための検討会が発足した。西尾の開発する防災システムが将来、日本の防災対策の要となるかもしれない。



G空間誘導灯